

1-2 世界の湖と琵琶湖

地球上には、自然湖、人造湖をあわせ大小無数の湖沼が存在し、それらは利用可能な淡水資源の大半を占めています。その多様な資源価値に依存している我々にとって、地球規模で起こっている水質悪化や生態系機能の低下は深刻な問題です。琵琶湖と世界の湖沼流域管理の経験を生かす国際的な活動の重要性がより高まっています。

1. 湖沼の定義・数

「周囲を陸地で囲まれた水体」というのが「湖」の通念ですが、厳密な定義はなく、したがって、世界の湖の総数は数えられません。面積や深さで「池」や「沼」と「湖」とを区別する基準もなく、一部で海と繋がっている海岸の湖と「湾」との区別も明確ではありません。面積1ha以上の水溜りを湖沼と定義すると、世界には億単位が存在すると言われています。面積500km²以上を「大湖」と定義した報告によると、世界の大湖の数は253、うち188が淡水湖で、日本唯一の「大湖」・琵琶湖は、面積順で淡水湖の129位にあたります。

2. 湖沼の面積・標高・水深

湖沼は面積だけでなく標高・水深も様々です。例えば、南米ペルー・コロンビアの国境上に位置するチチカカ湖は標高3800m以上の高地にあり、中東イスラエルとヨルダンの国境上に位置する死海は標高-400m以下の低地に水面があります。水深が最も深い湖はロシアのバイカル湖で1500m以上、水深が非常に浅い湖の代表格はアフリカのサハラ砂漠南端にあるチャド湖で、乾季の水位は最大でも2m程度とされています。図1-2-1にこれらの代表例が図示されています。

3. 国際（越境）湖沼

琵琶湖は国内湖沼ですが、チチカカ湖や死海、チャド湖は複数の国々の境界上に位置するため、国際湖沼（越境湖沼）と呼ばれています。バイカル湖はロシア国内にありますが、最大の流入河川であるセレンゲ川はモンゴルが起源の国際河川（越境河川）です。実際、世界の大湖沼の多くは国際湖沼であるか、国際河川を流域に持つ湖沼です。有名なのはアフリカのビクトリア湖でその沿岸はケニア、ウガンダ、タンザニアの3カ国に接し、流入河川流域にはブルンジとルワンダが位置し、流出河川のナイル河は世界最大の国際河川で数カ国を経て地中海に流出します。図1-2-2には代表的な国際湖沼流域（紫色の部分）と国際河川流域（灰色の部分）が示されています。

この様に多様な形で存在する湖沼は気候変動や人間活動の影響を受けやすく、富栄養化、水位低下、土砂の流入、酸性化、毒物汚染、生態系の劣化などの問題が深刻化しています。

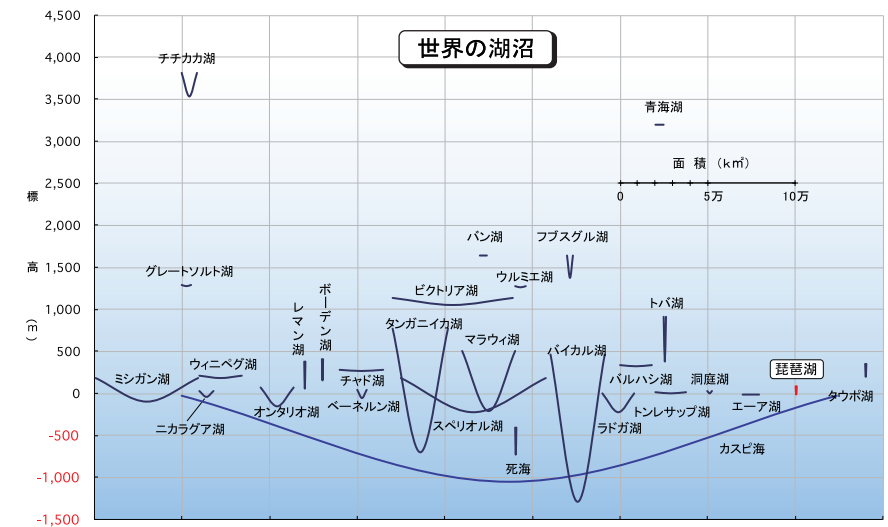


図1-2-1 世界の湖沼の標高と面積(滋賀の環境2016より)

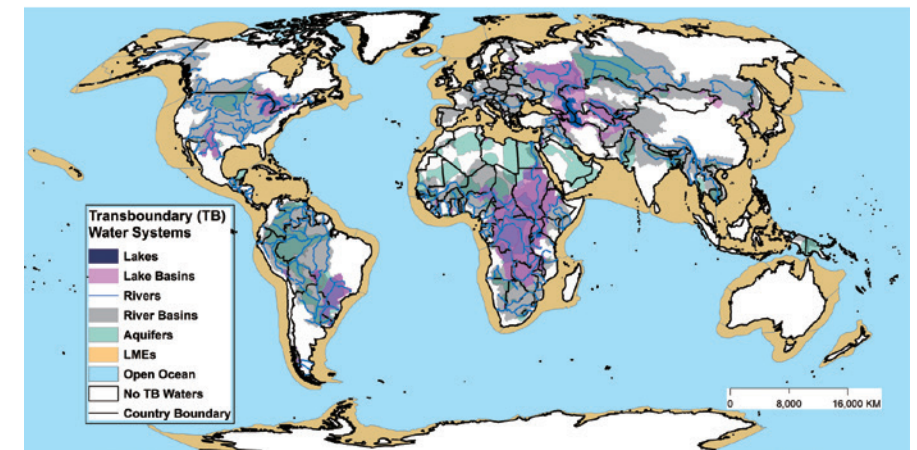


図1-2-2 世界の代表的な国際湖沼流域の分布(国際湖沼環境委員会[ILEC]提供)